

1 サイバー攻撃の情勢等

(1) サイバー空間における探索行為等

- インターネットとの接続点に設置したセンサーにおいて検知したアクセス件数は、1日1IPアドレス当たり2,223.6件と近年おおむね増加傾向。【図表1】
- アクセス件数が増加している主な要因としては、探索又は攻撃の標的がIoT機器等へ拡大し多様化が進んでいることなどが挙げられる。【図表2・3】
- 仮想通貨のネットワーク等を標的としたアクセスや、仮想通貨の採掘機能を備えた不正プログラムの感染活動等を観測。【図表4・5】

(2) サイバー攻撃の情勢及び取組

ア 情勢

- 警察と先端技術を有する事業者等との情報共有の枠組みを通じて報告を受けた標的型メール攻撃の件数は近年増加傾向にある中、本年上半期の件数（2,578件）は過去最多となった前年下半期と比較して減少。【図表6】
- 国際的ハッカー集団「アノニマス」を名乗る者が、15組織に対してサイバー攻撃を実行したとする犯行声明とみられる投稿をSNS上に掲載。

イ 取組

- 上記枠組みにおいて、集約された情報等を総合的に分析し、事業者等に対し、分析結果に基づく情報提供を実施。
- サイバー攻撃事案で使用された不正プログラムの解析等を通じて把握した国内の攻撃インフラの機能停止を促進。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、関係機関等との共同対処訓練、情報交換等の取組を推進。

2 サイバー犯罪の情勢等

(1) サイバー犯罪の検挙件数及びサイバー犯罪等に関する相談件数

サイバー犯罪の検挙件数は近年増加傾向にある中、本年上半期の件数（4,183件）は過去最多となった前年の上半期と比較して微減。また、相談件数は平成28年に集計をとり始めて以来最多を記録したが、平成29年には減少し、本年上半期の件数（6万1,473件）も前年の上半期と比較して減少。【図表11・12】

(2) インターネットバンキングに係る不正送金事犯の発生状況等

- 発生件数は211件、被害額は約3億7,200万円で、いずれも減少傾向。【図表13・14】

- 金融機関によるモニタリングの強化、ワンタイムパスワードの導入等の対策により、近年、被害件数・被害額共に大きく減少。

(3) 仮想通貨交換業者等への不正アクセス等による不正送信事犯

- 認知件数158件（前年同期比+107件）、被害額約605億300万円（前年同期比+約603億8,800万円）相当。認知した158件のうち102件（64.6%）において、利用者が他のインターネット上のサービスと同一のID・パスワードを使用。
- 本年1月、国内の仮想通貨交換業者から約580億円相当の仮想通貨が不正に送信されたとみられる事案が発生。

(4) 取組

- 一般財団法人日本サイバー犯罪対策センター（J C 3）と連携した自動送金機能を有するインターネットバンキングウイルス「DreamBot」に係る対策及びインターネットショッピングに係る詐欺サイト対策。
- 仮想通貨不正送信事犯に係る対策として、金融庁に対し、同事犯の認知状況等についての情報提供と仮想通貨交換業者に対する指導等への協力・支援を確認。
- 被害防止のための情報の提供と被害防止対策強化の要請。

3 今後の取組

「警察におけるサイバーセキュリティ戦略」に基づく各種取組の推進

- サイバー空間の脅威への対応の強化
 - ・ サイバー犯罪に対する捜査の推進、情報技術の解析の更なる活用
 - ・ サイバー攻撃に関する情報の収集・分析、重要インフラ事業者等との情報共有、捜査及び実態解明等の推進
 - ・ 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたサイバーセキュリティ対策の推進（関係機関等との情報共有、共同対処訓練の実施等）
- 組織基盤の更なる強化
 - ・ 専門的捜査員の計画的な育成、情報技術の解析に係る高度専門人材の育成
 - ・ 人工知能（AI）等の新たな技術の活用、ダークウェブ上の情報の収集・分析手法等の研究開発
- 国際連携及び産学官連携の推進
 - ・ 外国捜査機関等との連携
 - ・ J C 3等と連携した被害防止対策等の推進

図表省略

1 山口組分裂後の情勢と対策

(1) 六代目山口組分裂以降の主な情勢

- 平成27年8月、六代目山口組が分裂し、神戸山口組が結成
- 平成28年3月、対立抗争状態と認定
- 平成28年5月、六代目山口組傘下組織組員が神戸山口組傘下組織幹部を射殺（岡山、同年6月及び8月検挙）
- 平成29年4月、神戸山口組の傘下組織の一部が新たな団体の結成を表明
- 平成29年9月、任侠山口組関係者が銃撃され死亡、同月、神戸山口組傘下組織組員を指名手配

(2) 警察における対策

- 取締りの徹底
 - ・ 六代目山口組と神戸山口組の対立抗争に起因するとみられる不法行為等の発生件数・検挙件数（平成27年8月27日～現在）
発生件数：104件、検挙件数：68件
 - ・ 神戸山口組と任侠山口組の傘下組織関係者が絡む事件の発生件数・検挙件数（平成29年4月30日～現在）
発生件数：8件、検挙件数：5件
- 暴力団対策法の運用
平成28年4月に神戸山口組を、平成30年3月に任侠山口組を指定暴力団に指定
- 暴力団事務所使用差止請求への支援
山口組分裂に関連する事務所使用差止請求件数：11件
（うち適格都道府県センターによる人格権に基づく申立て：9件）

2 その他の暴力団情勢

(1) 五代目工藤會

平成30年7月、五代目工藤會総裁野村悟らによる所得税法違反（脱税）事件につき、野村に懲役3年・罰金8千万円、共犯の幹部に懲役2年6月の実刑判決（控訴中）

(2) 六代目会津小鉄会

平成29年1月、本部事務所をめぐる乱闘事件が発生、現在も内部対立が継続

3 「民事執行法制の見直しに関する要綱案」の取りまとめ

平成30年8月、法制審議会民事執行法部会において、「民事執行法制の見直しに関する要綱案」が取りまとめられ、不動産競売における暴力団員の買受け防止の方策（買受けの申出をしようとする者の陳述、執行裁判所による警察への調査の囑託、執行裁判所の判断による暴力団員の買受けの制限等）が示された。

公安委員会 説明資料No. 3	仙台市における交番襲撃による 警察官殺人事件について	平成30年9月20日 捜査第一課 地域課
--------------------	-------------------------------	----------------------------

平成30年9月19日、仙台市内の交番において、交番勤務員が刃物で襲われて殺害される事件が発生した。

1 被疑者

宮城県仙台市

大学3年生

21歳

※ 午前5時26分死亡確認

2 被害者

警察官（巡査長）

男性

33歳

※ 午前5時15分死亡確認

3 捜査の経過

- 仙台東警察署東仙台交番から、宮城県警察本部に対する非常通報により認知。
- 被疑者が拾得者を装い交番に来所し、被害者が事務室で対応していたところ、刃物で襲われて殺害された模様。
- 相勤者が、言い争う声を聞いて確認したところ、被害者が血まみれで倒れており、被疑者が刃物及び拳銃様のものを構えていた状況を認め、3発発砲し、被疑者の左側胸部等に命中。
- 被疑者及び被害者の警察官ともに、いずれも病院搬送後、死亡確認。